



平成 28 年 9 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンズメイト
代表者名 代表取締役社長 富澤 茂
(コード番号 7448 東証第一部)
問合せ先 代表取締役専務 砂田真一
電話番号 03-5738-5555

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、下記のとおり特別損失の計上をお知らせするとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 28 年 4 月 1 日に公表した平成 29 年 2 月期（平成 28 年 2 月 21 日～平成 29 年 2 月 20 日）の業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

減損損失

全社での収益性が悪化していることを受け、店舗及び本部設備等の共用資産について「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損処理を行ない、40 百万円を特別損失として第 2 四半期会計期間に計上いたします。

2. 平成 29 年 2 月期第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正（平成 28 年 2 月 21 日～平成 28 年 8 月 20 日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 28 年 4 月 1 日発表)	4,936	23	28	△90	△8 円 24 銭
今回修正予想 (B)	4,573	△245	△234	△338	△30 円 96 銭
増減額 (B-A)	△363	△268	△262	△248	—
増減率 (%)	△7.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 2 月期第 2 四半期)	4,549	△245	△221	53	4 円 86 銭

3. 平成 29 年 2 月期通期業績予想数値の修正（平成 28 年 2 月 21 日～平成 29 年 2 月 20 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 28 年 4 月 1 日発表)	9,915	10	20	△200	△18 円 31 銭
今回修正予想 (B)	9,580	△350	△330	△650	△59 円 50 銭
増減額 (B-A)	△335	△360	△350	△450	—
増減率 (%)	△3.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 2 月期)	9,308	△663	△629	△546	△50 円 05 銭

4. 修正の理由

(売上高)

第 2 四半期累計期間における売上高については、春物では MA-1 タイプ等の羽織り物、夏物では人気キャラクターとのコラボ T シャツや汗染み防止加工を施した T シャツなどが好調に推移いたしました。5 ポケットを中心とした定番のボトムス類は期間を通して苦戦を強いられました結果、4,573 百万円となる見通しとなりました(既存店前期比 102.5%(当初計画は既存店前期比 110.6%))。

(営業損失及び経常損失)

当初の通期計画については、売上高が前期より 607 百万円増加し、売上総利益率が前期より 3.3 ポイント改善すること等により、営業利益が 673 百万円増加するものとしておりました。

第 2 四半期累計期間における売上総利益率については、商品構成の改善や提案力強化等により 49.0%とすることを計画しておりましたが、在庫削減を最優先に取り組んだことにより計画より 2.3 ポイント低い 46.7%にとどまりました。

第 2 四半期累計期間における販売費及び一般管理費については、人件費が計画より増加したものの管理費の削減に努め、当初計画比 99.4%の 2,382 百万円に抑制いたしました。

これらの結果、営業損失 245 百万円、経常損失 234 百万円となる見通しとなりました。

(四半期純損失)

第 2 四半期累計期間における特別損失が減損損失等により 83 百万円となり、四半期純損失は 338 百万円となる見通しとなりました。

(第 3 四半期以降)

売上高については、当初計画は前期比 104.6%でしたが、事業譲受や大手通販サイトへの出店など当初計画にない要素を織り込み 5,007 百万円（前期比 105.2%）を見込んでおります。

売上総利益率については、当初計画は 47.9%でしたが、第 2 四半期累計期間の実績を踏まえ当初計画から 0.8 ポイント下げ 47.1%（前期は 42.7%）を見込んでおります。

販管費については、当初計画は前期比 97.9%でしたが、人件費の上昇や事業譲受による増加等を勘案し 2,462 百万円（前期比 100.5%）を見込んでおります。

特別損失については、当初計画は前期比 64.3%でしたが、最新の出退店計画に基づき減損損失、店舗閉鎖損失等を勘案し 198 百万円（前期比 115.8%）を見込んでおります。

以上の見直しの結果、通期業績予想を売上高 9,580 百万円、営業損失 350 百万円、経常損失 330 百万円、当期純損失 650 百万円にそれぞれ修正いたします。

5. 業績改善に対する取組状況

(「適品」「適時」「適価」「適量」「適所」の追求による在庫効率の改善)

店頭在庫の削減、物流センターの商品備蓄機能強化及びタイムリーな商品フォロー、店舗特性に応じた品揃え、競争力のある価格設定等に取り組んでおります。

(「売場・商品・販促」の三位一体による売上高の向上)

関連チームの合同会議設置、売場での展開方法やPOP等の見直しによる提案力強化、販売スタッフの育成制度の見直し、SNSやメールによる情報発信の強化等に取り組んでおります。

これらの結果、第2四半期累計期間における既存店売上高は前年同四半期比2.5%増、同客数は2.3%増、第2四半期会計期間末の商品在庫原価は前年同会計期間末に比して7.4%の削減となりました。

(注) 上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上